

# 空き家・老朽 危険家屋対策はどうか

貝田 義博 議員

## 答 空き家バンクの創設や 他自治体施策など研究する

れる方の定住促進を図る意味から空き家バンク創設を準備している。

**問** 廃屋などの老朽危険家屋対策はどうか。

**企画財政課長** これまで数件の相談があり、改めて実態調査を行うよう考えている。

**市長** 年度当初、老朽家屋対策検討委を庁内で発足、他の自治体の施策など研究し、どのような対策がとれるか検討する。

## 自治会への 未加入対策は

**問** 全国的に自治会への未加入が増えており、問題となっているが当市の現状と対策はどうか。

**地域支援課長** 加入率は96%、未加入者は増えている現状。未加入問題では毎月数件の相談がある。加入は個人の自由意志だが、必要性などを説明し自治会加入を訴えている。

## 廃プラ回収の 現状と課題は

矢加部 茂晴 議員

## 答 計画を上回る実績 収集体制が課題

**問** 今年度から市内全域で始まった廃プラスチック回収の現状と課題は。

**市長** 計画である1か月あたり16・9トンに対して、4月が15・4トン、5月では20・1トンと、既に計画を上回る回収状況だ。逆に燃やすごみに

ついては、4月、5月の回収頻度を増やすにあたっては、収集車の増車や人員の対

2か月間で、燃やす分の収集量が前年度同月と比べて、93・4%と6%余り減ってきている。収集日が月2回では少ないという意見があり、今後の課題だ。

**かんきよう課長** 回収頻度を増やすにあたっては、収集車の増車や人員の対

策を講ずる必要がある。回収頻度を増やすにあたっては、収集車の増車や人員の対

応が必要となり、収集コストが大きくならざるを得ず、今後、慎重に対応策について考えたい。

## 筑後市の環境 市民と考える機会を

**問** 中間的な成果も含めた廃プラ回収の現状や生活ごみの現状等、ごみ減量化等を通して、筑後市の環境について今一度改めて考える特集記事を今年度中に市広報で出していきたい。

**問** 平成15年に全国659万戸だった空き家は、20年には757万戸と5年で100万戸も増加、空き家の割合は13%にのぼる。当市の場合、現状と空き家対策はどうか。



求められる空き家対策



今年度から資源ごみの分別品目に加わった  
廃プラスチック

**市長** 筑後市がごみ問題に本気で取り組んでいることを広報等で出してほしいということだが、これはぜひ近い機会にそういう特集記事を組んで市民の皆さんに訴えていくものになりたい。